

1. 媒体作成条件

項番	項 目	内 容					
1	作 成 単 位	同一料金月、同一支払期限でお客さま単位（会社コード単位）					
2	フォーマット形式	3. 5インチFD				CD-R	MO
		2 H D		2 D D			
		1. 25MB	1. 44MB	640KB	720KB	650MB	128MB
3	標準最大出力件数 （圧縮希望時）	1, 800 レコード [*] (14, 400)	2, 200 レコード [*] (17, 600)	1, 000 レコード [*] (8, 000)	1, 000 レコード [*] (8, 000)	—	—
4	使 用 コ ー ド	J I S 漢字コード：シフトJ I S					
5	レ コ ー ド 長	可変長（復帰改行コードが追加されます）					
6	フ ァ イ ル 形 式	テキスト形式・項目名付CSV （1枚に収容しきれない場合は、同一ファイル名で複数枚作成します）					

注：項目名付CSV形式とは、レコードの先頭に項目名のみの項目名レコードを編集し、その後ろにデータレコードを編集する形式です。レコードの編集形式は以下のとおりとなっています。

- （1）項目と項目の間をカンマ（,）で区切ります。
- （2）1レコードの最終項目編集後、復帰改行（C R L F）を付加します。
- （3）数値項目（件数・金額等）以外の場合は、そのデータをダブルクォート（" "）で囲みます。
（例："A B C D"）
- （4）数値項目（件数・金額）以外の場合で、データが省略されている場合は半角のスペースを編集し、ダブルクォートで囲みます。（例：" "）
- （5）数値項目の場合は、有効数字のみ編集します。
※有効数字の編集に伴い、仕様書上の桁数と異なる場合があります。
- （6）数値項目の場合で、データが省略されている場合は、半角のゼロのみ編集します。
（例：..., 0, ...）
- （7）標準最大出力件数は、記録媒体への収容方法により変動します。

<圧縮について>

お客さま提供データの圧縮希望時は、フリーソフトウェアの「高圧圧縮書庫管理プログラムLHA」を使用し、自己解凍形式（プログラム形式）で圧縮します。

圧縮したデータの解凍手順

- ① パソコンのハードディスクにコピーする。
 - ② ファイルを実行する。
- 以上で圧縮したデータが自動的に解凍されます。

2. ファイル仕様

(1) 作成するファイル

ファイル名称	ファイル名
管理ファイル	A〇〇〇〇〇〇01.CSV
法人サービス利用者番号別内訳ファイル	A〇〇〇〇〇〇11.CSV
請求書作成番号合計ファイル	A〇〇〇〇〇〇51.CSV
会社合計ファイル	A〇〇〇〇〇〇91.CSV

注1：記録媒体2枚以上にまたがるファイルは、法人サービス利用者番号別内訳ファイルのみです。

注2：作成するファイル名の構成

A 〇〇〇〇〇〇 ×× . CSV
 *1 *2 *3 *4

- *1 「A」：法人サービス利用者番号別明細内訳書の表示
- *2 弊社が付与するお客さま識別コード（数字5桁）
- *3 ××：データ種類（圧縮の場合は記録媒体作成通番01～99）
- *4 CSV：ファイル拡張子（圧縮の場合は「exe」）

- ・圧縮の場合は、××に記録媒体作成通番01～99、ファイル拡張子「exe」のファイルを作成しますが、自動解凍後に上記のとりのファイルになります。
- ・圧縮ファイルが複数枚となった場合に同じフォルダ内で解凍すると、法人サービス利用者番号別内訳ファイルは1枚目からN枚目が全て同じファイル名で解凍されますので、後から解凍したファイルで上書きされます。複数枚になった場合は、フォルダを変えて解凍して下さい。

(2) 収容方法

① 1枚目

管理ファイル、請求書作成番号ファイル、会社合計ファイルを収容してから、法人サービス番号別内訳ファイルを収容件数が、最大出力件数（記録媒体のフォーマット形式毎に定めた、記録媒体に収容可能な最大件数）になるまで収容します。

② 2枚目以降

1枚目に収容しきれなかった場合、残りの法人サービス利用者番号別内訳ファイルを2枚目以降の記録媒体に順次収容します。最大99枚まで収容可能です。

※項目名レコードについては、作成しません。

3. ファイル構成

●管理ファイル

--

●法人サービス番号別内訳ファイル（法人サービス利用者番号別の内訳レコードで構成）

法人サービス 利用者番号別内訳レコード 1番目	法人サービス 利用者番号別内訳レコード2 1番目	～	法人サービス 利用者番号別内訳レコード2 N番目	法人サービス 利用者番号別内訳レコード 1番目	法人サービス 利用者番号別内訳レコード2 1番目	～	法人サービス 利用者番号別内訳レコード2 N番目	～	法人サービス 利用者番号別内訳レコード 1番目	法人サービス 利用者番号別内訳レコード2 1番目	～	法人サービス 利用者番号別内訳レコード2 N番目
法人サービス 利用者番号1番目				法人サービス 利用者番号2番目				法人サービス 利用者番号N番目				

1. 同一法人サービス利用者番号の情報が、「法人サービス利用者番号別内訳レコード」に収まらない時、オーバー分を「法人サービス利用者番号別内訳レコード2」として格納する。
2. 又、「法人サービス利用者番号別内訳レコード2」は複数レコード存在する場合があり、「法人サービス利用者番号別内訳レコード」から「レコードNO」をシーケンスで付与する。
3. 請求書作成番号合計レコードも上記と同様の構成となる。

●請求書作成番号合計ファイル（請求書作成番号別の内訳レコードで構成）

請求書作成番号 合計レコード 1番目	請求書作成番号 合計レコード2 1番目	～	請求書作成番号 合計レコード2 N番目	請求書作成番号 合計レコード 1番目	請求書作成番号 合計レコード2 1番目	～	請求書作成番号 合計レコード2 N番目	～	請求書作成番号 合計レコード 1番目	請求書作成番号 合計レコード2 1番目	～	請求書作成番号 合計レコード2 N番目
請求書作成番号1番目				請求書作成番号2番目				請求書作成番号N番目				

●会社合計ファイル

--

4. レコード構成

(1) 管理レコード

会社コード	データ種類	年月群	媒体通番	網種別	媒体識別	請求回数	詳細群
5	2	7	2	8	3	1	1

(2) 法人サービス利用者番号別内訳レコード (第1レコード)

法人サービス利用者番号	定期分割区分	データ種類	レコードNO	レコード数	ご請求番号	部課別コード	減算不能区分	サービス種別	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	日	法人サービス利用料等初日	日	法人サービス利用料等末日	検針日前回	検針日今回	予備	予備	ご請求金額
10	1	2	2	2	10	6	8	36	4	4	4	4	4	4	4	4	10	10	10

請求内訳 1								請求内訳 2 ~ 請求内訳 16	請求内訳 17								年月群
利用会社 1	内訳コード 1	請求内訳コード 1	請求内訳名 1	再掲表示 1	内訳金額 1	残回数 1	税区分 1		利用会社 17	内訳コード 17	請求内訳コード 17	請求内訳名 17	再掲表示 17	内訳金額 17	残回数 17	税区分 17	
30	3	4	36	6	10	3	20	1680	30	3	4	36	6	10	3	20	7

※請求内訳は、1レコード最大17内訳まで収容します。同一法人サービス利用者番号で18内訳以上の請求内訳がある場合、18内訳目以降は、第2レコード以降に収容します。

(3) 法人サービス利用者番号別内訳レコード2 (第2レコード以降)

法人サービス利用者番号	定期分割区分	データ種類	レコードNo.	レコード数	ご請求番号	部課別コード	減算不能区分	サービス種別	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	法人サービス利用料等初日	法人サービス利用料等末日	検針日前回	検針日今回	予備	予備
10	1	2	2	2	10	6	8	36	4	4	4	4	4	4	10	10

ご請求金額	請求内訳 1								請求内訳 2、請求内訳 16	請求内訳 17								年月群
	利用会社 1	内訳コード 1	請求内訳コード 1	請求内訳名 1	再掲表示 1	内訳金額 1	残回数 1	税区分 1		利用会社 17	内訳コード 17	請求内訳コード 17	請求内訳名 17	再掲表示 17	内訳金額 17	残回数 17	税区分 17	
10	30	3	4	36	6	10	3	20	1680	30	3	4	36	6	10	3	20	7

※同一法人サービス利用者番号で、請求内訳が35内訳以上ある場合、第3レコード以降に收容します。第3レコード以降のレコードフォーマットおよびレコード内容については、第2レコードと同一となります。

(4) 請求書作成番号合計レコード (第1レコード)

ご請求番号	データ種類	レコードNO	レコード数	部課別コード	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	法人サービス利用料等初日	法人サービス利用料等末日	検針日前回	検針日今回	予備	予備	請求合計金額	請求件数	金融機関コード	口座番号
10	2	2	2	6	4	4	4	4	4	4	10	10	10	8	7	8

口座名義	送付先名	請求内訳 1								請求内訳 2、請求内訳 1 6	請求内訳 1 7								年月群
		利用会社 1	内訳コード 1	請求内訳コード 1	請求内訳名 1	再掲表示 1	内訳金額 1	残回数 1	税区分 1		利用会社 17	内訳コード 17	請求内訳コード 17	請求内訳名 17	再掲表示 17	内訳金額 17	残回数 17	税区分 17	
40	40	30	3	4	36	6	10	3	20	1680	30	3	4	36	6	10	3	20	7

(5) 請求書作成番号合計レコード2 (第2レコード以降)

ご請求番号	データ種類	レコードNo.	レコード数	部課別コード	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	日 法人サービス利用料等初	末日 法人サービス利用料金等	検針日前回	検針日今回	予備	予備	請求合計金額	請求件数	金融機関コード	口座番号
10	2	2	2	6	4	4	4	4	4	4	10	10	10	8	7	8

口座名義	送付先名	請求内訳1								請求内訳2、請求内訳16	請求内訳17								年月群
		利用会社1	内訳コード1	請求内訳コード1	請求内訳名1	再掲表示1	内訳金額1	残回数1	税区分1		利用会社17	内訳コード17	請求内訳コード17	請求内訳名17	再掲表示17	内訳金額17	残回数17	税区分17	
40	40	30	3	4	36	6	10	3	20	1680	30	3	4	36	6	10	3	20	7

※同一請求番号で、請求内訳数が18内訳以上ある場合、第3レコード以降に収容します。第3レコード以降のレコードフォーマットおよびレコード内容については、第2レコードと同一となります。

(6) 会社合計レコード

会社コード	データ種類	会社合計請求金額	会社合計請求件数	年月群
5	2	12	8	7

5. レコード内容

(1) 管理レコード

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	会 社 コ ー ド	文字	5	弊社がお客さま単位に設定した番号 例：“30009”
2	デ ー タ 種 類	文字	2	“01”を設定
3	年 月 群	文字	7	処理年月群を設定 年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2007年6月C群の場合→“2007063” (コード表「項番5、料金群・詳細群」参照)
4	媒 体 通 番	文字	2	“01”を設定
5	網 種 別	文字	8	“法人”を設定
6	媒 体 識 別	文字	3	出力媒体を設定 FD … “FD” MO … “MO” CD-R … “CDR” ビリングステーション(注1)をご契約の場合…“BS”
7	請 求 回 数	文字	1	法人サービス利用者番号で、同一期別内に請求書を発行した回数 (料金群変更時等) * 再発行は対象外 * 回数は0から起算
8	詳 細 群	文字	1	詳細群を“A”～“V”、“1”～“9”で設定 (コード表「項番5、料金群・詳細群」参照)

(注1)：ビリングステーションとは、電話等サービスの「料金・通話明細データ」を専用Webサーバーからダウンロードできるオンラインサービスです。

(2) 法人サービス利用者番号別内訳レコード

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	法人サービス利用者番号	文字	10	10桁以内の場合・・・そのまま利用者番号を設定。 11桁以上の場合・・・P18参照
2	定期分割区分	文字	1	“0”を設定
3	データ種類	文字	2	“11”を設定
4	レコードNO	文字	2	同一法人サービス利用者番号でのレコードNoを設定
5	レコード数	文字	2	同一法人サービス利用者番号でのレコード数を設定
6	ご請求番号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード 例：“0001234567”
7	部課別コード	文字	6	お客様が法人サービス利用者番号単位に設定した部課別コード 設定ありの場合：“000001”～“999999”を設定 設定なしの場合：“000000”を設定
8	減算不能区分	文字	8	“通常”または“減算不能” (コード表「項番1、減算不能区分コード」参照)
9	サービス種別	文字	36	法人サービス サービス種別名を設定。 (コード表「項番6、非電話サービス種別」参照)
10	ご利用期間 基本料等初日	文字	4	利用期間の初日(開始)および末日(締切)を設定 例：初日 10月 1日 → “1001” 末日 10月 31日 → “1031”
11	ご利用期間 基本料等末日	文字	4	
12	法人サービス利用料等 初	文字	4	
13	法人サービス利用料等 末	文字	4	
14	検針日前回	文字	4	オールゼロを設定
15	検針日今回	文字	4	
16	予備	文字	10	
17	予備	数字	10	
18	ご請求金額	数字	10	該当電話番号の請求金額を設定 例： 5, 250円(プラス金額)の場合 →5250 マイナス金額の場合、符号付編集 例：-1, 000円(マイナス金額)の場合 →-1000

次項へ続く

(2) 法人サービス利用者番号別内訳レコードの続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
19	利 用 会 社 1	文字	30	ご利用の会社名を表示 例：“NTTコミュニケーションズ”
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	請求内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	請求内訳名を設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照) 例：“ダイヤル通話料”等
	再 掲 表 示 1	文字	6	スペースを設定
	内 訳 金 額 1	数字	10	請求内訳コード毎の金額を出力 マイナス金額の場合、符号付編集 例：-1,000円(マイナス金額)の場合 →-1000
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	20	消費税区分を設定 (コード表「項番4、税区分コード」参照) 例：“合算”、“個別”等
20	請求内訳2～16			2個目以降の請求内訳を示し、内訳が存在しない場合の編集方法は、「項番1 媒体作成条件」参照 (請求内訳は最大17内訳までを本レコードに編集し、17内訳を超える場合は「(3) 法人サービス利用者番号別内訳レコード2」に編集)
21	利 用 会 社 17	文字	30	
	内 訳 コ ー ド 17	文字	3	
	請 求 内 訳 コ ー ド 17	文字	4	
	請 求 内 訳 名 17	文字	36	
	再 掲 表 示 17	文字	6	
	内 訳 金 額 17	数字	10	
	残 回 数 17	文字	3	
	税 区 分 17	文字	20	
22	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2007年8月C群 → “2007083”

(3) 法人サービス利用者番号別内訳レコード2

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	法人サービス利用者番号	文字	10	10桁の場合・・・そのまま利用者番号を設定。 11桁以上の場合・・・P18参照
2	定期分割区分	文字	1	“0”を設定
3	データ種類	文字	2	“11”を設定
4	レコードNO	文字	2	同一法人サービス利用者番号でのレコードNoを設定 例：“02”～“99”
5	レコード数	文字	2	同一法人サービス利用者番号でのレコード数を設定
6	ご請求番号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード
7	部課別コード	文字	6	お客様がご契約番号単位に設定した部課別コード 設定ありの場合：“000001”～“999999”を設定 設定なしの場合：“000000”を設定
8	減算不能区分	文字	8	スペースを設定
9	サービス種別	文字	36	スペースを設定
10	ご利用期間 基本料等初日	文字	4	スペースを設定
11	ご利用期間 基本料等末日	文字	4	スペースを設定
12	法人サービス 利用料等初日	文字	4	スペースを設定
13	法人サービス 利用料等末日	文字	4	スペースを設定
14	検針日前回	文字	4	スペースを設定
15	検針日今回	文字	4	スペースを設定
16	予備	文字	10	
17	予備	数字	10	
18	ご請求金額	数字	10	ゼロを設定

次項へ続く

(3) 法人サービス利用者番号別内訳レコード2の続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
19	利 用 会 社 1	文字	30	ご利用の会社名を表示 例：“NTTコミュニケーションズ”
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	請求内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	請求内訳名を設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照) 例：“ダイヤル通話料”等
	再 掲 表 示 1	文字	6	スペースを設定
	内 訳 金 額 1	数字	10	請求内訳コード毎の金額を出力 マイナス金額の場合、符号付編集 例：-1,000円(マイナス金額)の場合 →-1000
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	20	消費税区分を設定 (コード表「項番4、税区分コード」参照) 例：“合算”、“個別”等
20	請求内訳2～16			2個目以降の請求内訳を示し、内訳が存在しない場合の編集方法は、「項番1 媒体作成条件」参照 (請求内訳は最大17内訳までを本レコードに編集し、17内訳を超える場合は、「(3) 法人サービス利用者番号別内訳レコード2」[第3レコード(レコードNO“3”)以降]に編集)
21	利 用 会 社 17	文字	30	
	内 訳 コ ー ド 17	文字	3	
	請 求 内 訳 コ ー ド 17	文字	4	
	請 求 内 訳 名 17	文字	36	
	再 掲 表 示 17	文字	6	
	内 訳 金 額 17	数字	10	
	残 回 数 17	文字	3	
	税 区 分 17	文字	20	
22	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2007年8月C群 → “2007083”

(4) 請求書作成番号合計レコード

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	ご 請 求 番 号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード 例：“0001234567”
2	デ ー タ 種 類	文字	2	“51”を設定
3	レ コ ー ド N O	文字	2	同一ご請求番号でのレコードNoを設定
4	レ コ ー ド 数	文字	2	同一ご請求番号でのレコード数を設定
5	部 課 別 コ ー ド	文字	6	オールゼロを設定
6	ご 利 用 期 間 基 本 料 等 初 日	文字	4	利用期間の初日(開始)および末日(締切)を設定 例：初日 10月 1日 → “1001” 末日 10月31日 → “1031”
7	ご 利 用 期 間 基 本 料 等 末 日	文字	4	
8	法人サービス利用料等初日	文字	4	
9	法人サービス利用料等末日	文字	4	
10	検 針 日 前 回	文字	4	オールゼロを設定
11	検 針 日 今 回	文字	4	
12	予 備	文字	10	
13	予 備	数字	10	
14	請 求 合 計 金 額	数字	10	請求書作成単位の請求金額を設定 例：100,000円の場合 → 100000
15	請 求 件 数	数字	8	請求書作成単位の法人サービス 利用者番号数を設定 例：100回線の場合 → 100
16	金 融 機 関 コ ー ド	文字	7	口座振替の場合、金融機関コードを設定 口座振替以外は、スペースを設定
17	口 座 番 号	文字	8	口座振替の場合、口座番号を設定 口座振替以外は、スペースを設定
18	口 座 名 義	文字	40	口座振替の場合、半角カナ左詰めの口座名義を設定 口座振替以外は、スペースを設定
19	送 付 先 名	文字	40	請求書送付先氏名を半角カナ左詰めで設定

次項へ続く

(4) 請求書作成番号合計レコードの続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
20	利 用 会 社 1	文字	30	スペースを設定
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	
	再 掲 表 示 1	文字	6	
	目 割 表 示 1	文字	4	
	内 訳 金 額 1	数字	10	ゼロを設定
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	20	
21	請求内訳2～16			
22	利 用 会 社 17	文字	30	スペースを設定
	内 訳 コ ー ド 17	文字	3	
	請 求 内 訳 コ ー ド 17	文字	4	
	請 求 内 訳 名 17	文字	36	
	再 掲 表 示 17	文字	6	
	目 割 表 示 17	文字	4	
	内 訳 金 額 17	数字	10	ゼロを設定
	残 回 数 17	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 17	文字	20	
23	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2007年8月C群 → “2007083”

(5) 請求書作成番号合計レコード2

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	ご 請 求 番 号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード 例：“0001234567”
2	デ ー タ 種 類	文字	2	“51”を設定
3	レ コ ー ド N O	文字	2	同一ご請求番号でのレコード No を設定 例：“02”～“99”
4	レ コ ー ド 数	文字	2	同一ご請求番号でのレコード数を設定
5	部 課 別 コ ー ド	文字	6	オールゼロを設定
6	ご 利 用 期 間 基 本 料 等 初 日	文字	4	スペースを設定
7	ご 利 用 期 間 基 本 料 等 末 日	文字	4	
8	法人サービス利用料等初日	文字	4	
9	法人サービス利用料等末日	文字	4	
10	検 針 日 前 回	文字	4	
11	検 針 日 今 回	文字	4	
12	予 備	文字	10	
13	予 備	数字	10	
14	請 求 合 計 金 額	数字	10	ゼロを設定
15	請 求 件 数	数字	8	
16	金 融 機 関 コ ー ド	文字	7	スペースを設定
17	口 座 番 号	文字	8	
18	口 座 名 義	文字	40	
19	送 付 先 名	文字	40	

次項へ続く

(5) 請求書作成番号合計レコード2の続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
20	利 用 会 社 1	文字	30	ご利用の会社名を表示 例：“NTTコミュニケーションズ”
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	請求内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	請求内訳名を設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照) 例：“ダイヤル通話料”等
	再 掲 表 示 1	文字	6	スペースを設定
	内 訳 金 額 1	数字	10	請求内訳コード毎の金額を出力 マイナス金額の場合、符号付編集 例：-1,000円(マイナス金額)の場合 →-1000
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	20	消費税区分を設定 (コード表「項番4、税区分コード」参照) 例：“合算”、“個別”等
21	請求内訳2～16			2個目以降の請求内訳を示し、内訳が存在しない場合の編集方法は、「項番1 媒体作成条件」参照 (請求内訳は最大17内訳までを本レコードに編集し、17内訳を超える場合は、「(5) 請求書作成番号合計レコード2」[第3レコード(レコードNO“3”)以降]に編集)
22	利 用 会 社 17	文字	30	
	内 訳 コ ー ド 17	文字	3	
	請 求 内 訳 コ ー ド 17	文字	4	
	請 求 内 訳 名 17	文字	36	
	再 掲 表 示 17	文字	6	
	内 訳 金 額 17	数字	10	
	残 回 数 17	文字	3	
	税 区 分 17	文字	20	
23	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2007年8月C群 → “2007083”

(6) 会社合計レコード

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	会 社 コ ー ド	文字	5	お客様を識別するコードを設定
2	デ ー タ 種 類	文字	2	“91”を設定
3	会 社 合 計 請 求 金 額	数字	12	会社コード単位の請求金額合計を設定 例：1000000円の場合→1000000
4	会 社 合 計 請 求 件 数	数字	8	会 社 コ ー ド 単 位 の 法 人 サ ー ビ ス 利用者番号合計を設定 例：100回線の場合→100
5	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2007年8月C群 → “2007083”

6. 法人サービスの利用者番号の収録について

法人サービス利用者番号欄へは、利用者番号が10桁を超えた場合、以下の通り編集して出力いたします。

《編集条件》

お客さまがご締結されているご契約に応じた法人サービスのサービス種別コード(コード表に記載)を出力し、残りの桁を全て"0"埋めを行ったコードが出力されています。

変換方法は次のとおりです。

